

批判的教授法

—書簡を通して9.11を考える—

ハウ・デヴィッド、ピーターソン・ローリー
湘南工科大学の学生とフェリス女学院大学の学生

訳：長友しん、吉原令子

状況設定

教室という場で社会的問題を取り上げようとしていた者として、9月11日の事件はジレンマだった。事件に続いて強硬な報復戦争や制裁が起こり、私が異なった見地から意見を言うことが、どの程度安全なのだろうか。私は非常に心配で、怖くさえもあった。それからしばらくして、ある出来事が起こった。

後期がはじまって二週間経った頃、ニューヨークに住んでいる22才の姪、ローリー・ピーターソンから私は手紙を受け取った。その手紙で、彼女は、「(このような事件があった後でも) どうして私たちの生活は変化しなかったか、どうしてアメリカは一つになることができなかったのか、また貧しい者、労働者階級、市の中心街の有色人種にとってこの事件は何だったのか」と書いてきた。彼女の手紙は、私がずっと心の中で考えていた関係性の批判的教育に対して命の息吹を与える手紙だった。たとえば、学内外における嫌がらせがあったとしても、この手紙は多くの人々と分かち合うべきだと思った。私は、ローリーに電話をかけ、彼女の手紙を私の学生達と読んでもよいか尋ねたところ、彼女は快く同意してくれた。

私は四つのクラスを選んだ。私が専任教授として教えている湘南工科大学(SIT)のメディアコミュニケーションのクラスと、兼任講師で教えているフェリス女学院大学のESLクラスである。湘南工科大学は主に男子学生(約90%の学生は男子)で労働者層の出身である。彼らの両親のほとんどは大学を出ておらず、学生自身卒業までの学費と生活費を捻出するのに苦労している。一方、フェリス女学院大学は日本で最も古い女

予大の一つで由緒ある大学だ。ほとんどの学生は裕福な家庭から来ている。学生の年齢は、50歳の一人を除いて全員が18－20歳である。

授業では、私がローリーの手紙を英語で読み、難しい表現は日本語に訳し、学生にいくつかの質問を投げかけた。湘南工科大学での授業は英語ではないため、学生はグループになって日本語で手紙を書くように指示した。フェリス女学院大学では英語で手紙を書くように指示し、それぞれ個人の宿題にした。

私は学生に3つのことを体験してほしいと思った。ひとつは、学生達と同年代の人の話を直接聞き、虐げられしかも搾取された環境にある貧民街で育つことがどういうことなのか、関連させ考える経験をしてもらうことだった。マスメディアやディズニーランドやハリウッドに出てくる白人の国アメリカとは違う現実を体験してほしいと思った。二番目に、ワールドトレードセンターとアメリカ合衆国のアフガニスタンにおけるテロリズムについて様々な意見があることを学生達に知ってほしいということである。テレビやラジオや新聞では一部の不満分子が「西洋文明」を脅かしているとわめいているが、アメリカ合衆国にはいろいろな意見があって、アメリカ人全員がある種の報復戦争を指示しているわけではないということを知ってほしいと思った。三番目に、学生達が英語学習に積極的に参加できるような方向で、姪のローリーと交流してほしいと思った。学生達に対して、特別にどのように、あるいは、何を書いたらいいかということは一切指示を与えなかったことを明記しておきたい。一部の学生は、ローリーの結婚や彼女のボーイフレンドのジェイソンについて書いていたが、貧困、抑圧そして人種差別の問題に言及している学生も多くいた。学生達は、ローリーの9.11についての意見にそれなりに返答をしていた。彼女が書いていた全てのことに言及した学生はいなかったものの、かなりの学生達が彼女が言及したことについて1つ以上はきちんとコメントを書いていた。

ローリーの手紙

「デーブ伯父さん。私よ、ローリー。どう調子は？ 私はマアマアね。手紙が少し遅くなってごめんなさい。ちょっと予定が狂っちゃった。腎臓結石で調子が悪かったけど、今は大丈夫。ちゃんと生きているわ。

ボーイフレンドについて少し話したいの。伯父さんの聞きたいことか

どうかはわからないけど、私は彼をとっても愛しているの。私は結婚なんかどうでもいいと思っているんだけど、彼が結婚したがつているので伯父さんに彼の事を少し話すわね。私は、結婚は紙切れと税金にしか過ぎないと思っているのよ。ニューヨーク州にお金を払って、私が彼をどれだけ愛しているかを証明する紙を貰う必要はないと思う。でも、どういうわけか彼にとっては大事なことみたい。

彼の名前はジェyson・エドワード・ストレンジで29才の黒人。ストリートギャングみたいな感じで、普通の白人の常識からみたらきっと“与太者”というでしょうね。でも“与太者”じゃない！ とってもいい人よ。ただ、いろんなことを掻い潜ってきたのね。マウント・バーノンのゲッターに住んでいて、いろいろと大変なの。八方塞がりと言う状態ね。兄弟が殺され、妹はエイズで死亡し、心無い言葉で彼を傷つける人もいる。何となく私と境遇が似ているかもしれない。だから、お互いが必要だし、求め合っているのかもしれないわね。一緒にがんばろうと思うの。彼のような人にとって命を脅かされずに外の世界に飛び出すのは難しいことだけど、できると思う。

ついこの前の日曜日だって、彼は強盗に襲われて血まみれになってもう少して殺されるところだった。頭を何針も縫って、刺された所も縫って、肋骨は青あざだらけ。きっと伯父さんはこんな事聞きたくないでしょうけど、これが今の私の現実です。とにかく私は前向きに前進したいと思う。私自身問題があるわけではないのだから、良い人間になろうなんて考えていない。ただ、今のわたしの状況を変えたいだけ。

お母さんや姉妹を愛していないと言うわけじゃないけど、今の私にとって彼だけが愛する人なの。お母さんや姉妹たちは長いこと私をないがしろにし、私が無能なクズ人間扱いをしてきた。だから、もう会いたくない。私は、自分がいかにダメ人間で、私の意見は間違っていて馬鹿げているかを言われて続けてきた。私はハーバード大学に行ったわけじゃないけれど、生きる術はもっているし、何が本物かを見る目をもっているつもり。表面を砂糖で覆われたアメリカの生活なんていらぬ。家族の中で伯父さんだけが私のことを信じ話を聞いてくれる。ありがとう。

これだけは言っておきたい。アメリカはどうしようもない。ワールドトレードセンター事件以来、「彼ら」は「一致団結」とか、アメリカは「ひとつになる」というスローガンを年がら年中使っている。そして、「アメ

リ力は変わる」(これは私言葉のじゃない) と言っている。

でも、何も変わってはいない。今までと全く変わっていない。どんなスローガンがとんできて、何も変わらないでしょう。私に言えることは、「スローガンなんて聞こえやしない」ってこと。

そして、もうひとつ嫌なことは、行く先々で義援金の寄付を強制させられること。宝くじは積もり積もって1000万ドルにもなっているのに、あの人達は、私の財布からお金をむしり取ろうとしてるんだから。なんて馬鹿げた話なの。1 銭たりともあげるものか。誰も私のために募金活動なんかしてくれない。私たちが授業をトイレやクローゼットでやっている一方で、1000万ドルの宝くじがあって、貧しい人々からお金をふんだくろうなんて、地獄へ落ちればいいんだわ。私の個人的な意見だけど…。

伯父さんのことを愛してます。ケンやフミコやみんなによろしくネ。便りを待っています。絵と詩をおくりました。伯父さんの気に入るといいけど。

ローリーより

湘南工科大学の学生からローリーへの返信

マスメディアは人々に偏見を植え付けてしまいます。あなたのような人々は、世界について自分の考えや意見をもっていますが、マスメディアはそうした声を取り去ろうとしています。9. 11とアフガニスタンについて、アメリカのマスメディアや政府は、自分達が勝つと言っています。アメリカの政府が簡単にあきらめるとは思えません。だから、あなたのような意見は非常に貴重なのです。(ノブアキ、スグル、コージ、ダイスケ)

あなたはあなたを愛してくれる素晴らしい人がいます。わたし達もそうです。お互いが愛し合っているなら金持ちであろうと貧乏であろうと問題ではありません。(オサム、ヒトシ、ユウヘイ)

そのように深い知識と理解力をあなたが持っていることは素晴らしいことです。信ずることのために闘い続けなさい。アメリカには人種差別と抑圧があります。(アスカ、ユキエ、カナ、クニオ)

あなたが望むならば、結婚することは素晴らしい事だと思います。あ

なたの手紙の第二点目に関してですが、あなたが言っていることとアメリカのマスメディアが述べることは、かなり違いがあると思います。あなたの声が反映されていないとしても、あなたはメディアや政府を責めることはできません。あの人たちはマインドコントロールされているからです。あなたもそのことを理解する必要があります。被抑圧者が弱く、抵抗したり連帯したりすることを恐れるならば、彼（女）らは何もできないでしょう。あなたは自分の考えを表現する自由と権利をもっていますが、自分の言った事に責任をもてないならば言うべきではありません。勇気があるならば、自分の考えていることを声を大にして話すべきです。勇気を持って！（タクヤ、ユウゴ、ヤサヒ、ジュンイチロウ）

私たちはみんな、あなたの味方です。あなたの手紙の二番目の部分についてですが、何かを変えようとあなたが動かない限り何も変わらないでしょう。（タカシ、リョウタ、ユウヤ、アキヒロ）

あなたの手紙から、私たちは彼に対するあなたの暖かさと愛を感じます。きつとうまくいくでしょう。ニューヨークの宝くじや学校の状態について知りませんでした。あなたが言うように、お金は必要に応じて再分配されるべきです。アメリカのマスメディアが保守的なことは知っています。これは私たちの意見ですが、日本のマスコミや政府も同様です。（タカヒロ、ユキジ、ショウ、アツヤ）

手紙を読みました。正直言うと、返答するのが難しいです。あなたが言っていることが理解できないということではなくて、こういう経験がないので何を言っているのかわからないのです。アメリカが現在やっていることは正しいかもしれないし、あるいは、間違っているかもしれない。ワールド・トレード・センターで六千人の罪もない人々が死んだことは確かです。反テロキャンペーンは正しいと思いますが、アメリカが今行っていることは支持できません。アフガニスタンの罪のない人々を殺すことが、その答えだとは思えません。この問題がどのように解決されるか全くわかりません。私たちは恐れています。（カイ、ジュン、コトネ、タツヒト）

アメリカ政府はタリバンのようなテロリストです。タリバンのテロリズムを許すことはできませんが、アメリカも許せません。苦しむのは常に私たちのような普通の人々です。(ヒロシ、ヒロユキ、リョウスケ、ユウヤ、シュウヘイ)

結婚おめでとう。反対する人がいるかもしれないけれど、気にしないで自分の道を行ってください。手紙の二番目の部分についてですが、日本ではアフガニスタンに関する報道が多く流されていて、アメリカがこの戦争に勝つと言っています。とても悲しいことだと思います。だって、多くの罪のないアフガニスタン人が殺されていることを意味してるわけでしょ。不幸なことに、日本はアメリカに味方するようです。一部の人たちは、日本の自衛隊を現地に派遣すべきだと言っています。アフガニスタン人たちを殺すアメリカを支持するような行動に巻き込まれることには同意できません。私たちも殺人者になることを意味するからです。あなたが言うように、今の人たちの考え方は狂っています。もし機会があったら、あなたの考えを広めてください。残念ながら、日本では私たちの考えを広めることはできません。日本のマスメディアは全てをコントロールしています。(テルユキ、アキノリ、ヤスヒロ、トモアキ、タカマス)

ジェイソンとはどう？ ニューヨークのテロ事件はどうなっていますか。アメリカは平等じゃないよね。ゲットーに住むのは矛盾だらけってことだよね。でも頑張って！(ナオブミ、ユウキ、アキヒコ、タカマサ、ムネユキ)

ジェイソンの具合はどうですか。心配していました。弟と妹を亡くしたと聞いて悲しくなりました。よろしく伝えてください。アメリカは変わらなければなりません。しかしどのように変えればいいかわかりません。(ナオキ、リュウイチ、ツヨシ、コウスケ)

手紙をありがとう。私たちは、あなたは正しいと思います。アメリカは偽文化社会です。特権階級だけが何でも手に入れることができます。学校でさえもそうです。全てがお金です。私は日本で同じような経験を

しました。中学を卒業するころ、担任の先生から行きたくない高校に行くように言われ、いじめられました。とても傷つきました。自分の考え通りに行動して生きていけることはすばらしいことです。自分の価値観を相手に押しつけるのは間違えています。すばらしい人生を！（ケンタ、ユウタ、トモアキ、ユウヘイ、タケル）

結婚すると聞いて私たちもとても喜んでいます。あなたの家族は理解すべきですね。異人種間の結婚はアメリカで大変だと思いますが、差別や偏見に負けないでください。広い視野と強い精神力が必要だと思います。（マコト、ヨウヘイ、ユウマ、タカシ、シンゴ）

人種差別は本当に嫌です。マスメディアは人々を操り人形や人種差別主義者のように仕立ててしまいます。マスメディアが貧困や抑圧について本当のことを書かない限り、人々はそういうことに目を向けることはないでしょう。これはある種の人種差別であり偏見です。いろんなことがあるかもしれませんが、頑張ってください。障害を乗り越えることができると思います。（ケンイチ、ユウキ、マサオ、リョウタ）

フェリス女学院大学の学生からローリーへの返信

私はカズエ・シマダです。ちょっと自己紹介をさせてください。東京に住んでいて、現在18才です。フェリス女学院大の1年生です。趣味はヒップホップやR & Bの音楽を聴くことと映画鑑賞です。ロサンゼルスに行ったことがあります。あなたの手紙を読んで困惑し、何と云っていいかわかりませんでした。ジェイソンのことを愛しているようですね。彼もあなたのことを愛していて、とても羨ましく思います。私の前のボーイフレンドはだらしなかつたので、別れました。ジェイソンは問題を抱えているようですが、きっと良い人に違いないと思います。もし私があなただったらすぐに結婚するでしょう。そして、彼が白人だろうが黒人だろうが気にしません。だから、ほんとに彼のことを愛しているなら結婚すべきです。（カズエ）

お元気ですか。手紙を読みました。多くの問題を抱えていることが読み取れます。ボーイフレンドの状況はとっても大変ですね。あなたはス

ゴイ人だと思います。本質が見える人です。ボーイフレンドと一緒に人種差別から逃げないで闘っています。彼は正式に結婚したいようだけど、あなたが言うように紙切れ一枚の結婚は関係ないでしょう。愛し合っている者同士が信じ合っていれば、そんなことは重要ではありません。現在の関係が良いと思います。彼に対する扱いはひどいですね。9.11以降のアメリカの行動もひどい。これまでアメリカは自由で平和な国だと思っていましたが、今は違います。人生で大事なことは自分の考えに忠実に生きることです。正しいと思ったことをやりなさい。自分を信じて。家族のことを忘れないで。伯父さんはあなたのことをとっても心配していることを忘れないでください。あなたを応援しています。(ヤスエ・ホリベ)

テロがアメリカで起こった時、日常生活がコーヒーの中に溶けてしまったように感じました。テロにたいする報復が始まった時、毒入りフルーツを食べた感じがしました。アメリカ人の生活についてはわかりませんが、アメリカ人がみんな同じだとは思いません。様々な意見が社会に反映されないことも知っています。残念なことです。日本にいる私がどんなアドバイスができるのかわかりません。答えるのが困難です。本当にゴメンナサイ。これらの問題について一生懸命考えてみるつもりです。(ユカ・イソベ)

あなたの手紙には考えさせられました。アメリカがあなたの手紙に書いてあるような国だとは思ってもみませんでした。多分、全ての世界が砂糖で覆われているのかもしれませんが。世界中を飛び回っている嘘のニュースのなかで生活するのは大変なことです。ボーイフレンドはとってもステキ。頑張って。(エリ・ヤマシタ)

あなたは正直な人です。自分を隠そうとしないし、逃げずに世界を変えようとしている。素晴らしいことです。頑張って！(イズミ・カワムラ)

はじめまして。私はトモミ・イナムラです。フェリス女子学院大の学生です。手紙を読みました。ボーイフレンドのことは考え直したほうが

いいと思います。あなたのボーイフレンドは素晴らしいかもしれませんが、世界にはもっと多くの男性がいます。他の男の可能性も考えたらどうですか。2番目に自分自身の意見をもつ事はいいことだと思います。私は自分の意見をもっていないので人の意見を聞くだけです。あなたのような人間になりたいと思います。あなたの手紙は大きな励みになりました。(トモミ・イナムラ)

あなたの意見に賛成です。アメリカに行ったことはありませんし、アメリカの事実関係もわかりません。マスメディアから得た知識しかなかったもので、私は「アメリカ人の生活は変わるだろう」と思っていました。しかし、あなたの手紙を読んでから、私の意見が変わりました。ボーイフレンドと幸せになってください。様々な問題に遭遇するかもしれませんが、逃げないで頑張ってください。(サチコ・ムライ)

私の名前はケイコ・タマガキです。ハウ先生が教えるクラスの中で一番歳をとった学生です。固定観念やプロパガンダは私にとって非常に考えさせられるものです。英語は長い間勉強してきたのに、得意ではありません。とにかく、あなたに手紙を書けて幸せです。あなたの手紙は先週の金曜日に読みました。アメリカ軍がアフガニスタンのアル・カイダに対する攻撃を始めたと聞いて心配になりました。ブッシュ政権が世界に説明している理由は正義のもとでの報復であるとのこと。私は28と25才になる息子がいます。上の息子は1998年からアメリカ(ニューヨークとシアトル)に住んでいてアメリカ経済、大統領選挙、テロ等いろんなことについて話をします。私はアフガニスタンの子供達や難民がどうなったか知りたいと思います。それで、中村博士の講演を聞きに行きました。中村博士とそのグループはアフガニスタンの人々を18年に渡って医療面で支えてきました。私はアメリカの正義に疑問を感じています。私たちは事実から導かれる真実を認識しなければいけないと思います。お身体に気をつけて。(ケイコ・タマガキ)

ハウ先生への手紙を読みました。私もあなたのような人種差別を経験しました。私の父と祖母は朝鮮半島の人々に対して差別があります。戦争に行った祖父の影響です。差別意識をもっている人がいることは残念

であり、許すことができません。かといって、彼（女）らの感情を否定することもできません。というのは、彼（女）らは祖父から戦争についての話を聞いているからです。だからといって、差別を許していいのでしょうか。どんなことがあっても差別は許すことができません。いつか平和な時代が訪れるのでしょうか。私たちが生きているうちには無理かもしれませんが、いつか平和になることを願っています。（ハナコ・イタムラ）

私の名前はジュンコです。あなたの手紙を読んでいろいろなことを考えました。私は、全てのアメリカ人がこの報復戦争は正しいと考えていると思っていましたが、そうでないことがわかって本当に嬉しいです。9.11事件後、誰もがアメリカの国旗をもち「私たちは一つ」と言っています。わたしもちょっと違うんじゃないかと思っていました。それから、寄付をあげないということについてもあなたは正しいと思います。手紙を読むまでは考えも及びませんでした。先生（あなたの伯父さん）はあなたのことをとても頭がいい子と言っていますし、私もそのとおりだと思います。ジェイソンと幸せな人生を送ってください。（ジュンコ・タカギ）

デヴィッドの返信の一部

「最初にこの話から始めさせてほしい。二年ぐらい前のことで、博士課程論文を書いていた頃のことだ。私は非常に怒りを感じていた。普通の状態でも、怒りを押さえることができないくらい頭にきていた。博士論文が進まない自分自身に怒りを感じていた。世の中の不正義にも憤りを感じていたが、本当は白人の中流階級出身ではないのに、この二十年間そのふりをしてきた自分に怒りを感じていたのだ。長い間、そういう自分を隠し、闘おうとしなかった自分に苛立っていた。自分が何者であるかを隠そうとすればするほど、誰も理解してくれない言いようのない苦しい感情が沸き上がってきた。自分に問題があることは明らかだったが、解決することができなかった。

私の博士論文の担当教授の中に、シンシア・ローレンス・ワレスという女性がいた。彼女は黒人で、フェミニストで、レズビアンで、政治活動家だった。担当教授はみんなすばらしい人だったが、彼女が一番私のこ

とを理解してくれた。私の苦悩に対して、彼女は最初に、怒りのせいで書けないのではないと言った。私が怒っている時にこそ、一番よく書けるのだと言ってくれた。そして、もっと重要なことを私に教えてくれた。「デヴィッド、あなたは怒るという権利をもっているだけではなく、怒ったことに対する責任もあるのよ」と言ってくれたことだ。

今まで、誰もこのようなことを言ってくれなかった。大抵は、怒りは異常だと言われてきた。社会主義者になることは異常だと思われているように、得に白人アメリカ人が怒ることは異常であり、自分がいけないのだと言われている。

怒りは、主従関係が存在する19世紀の社会のように、サービス産業の世界では許されない代物だ。主人は怒ることができるが、召使は怒れない。つまり、己の領分を知れということだ。あなたの怒りが頂点に達しても、一たとえあなたが抑圧されてそれに対して抵抗しようとした時でさえ一、あなたは怒りを抑えなければならない。少なくともとも尊敬する友人がいる前では…。

心理学とは、あなたに問題があることを証明するために造り出された学問だ。心理学は過酷なものだ。心理学は個人がいかに社会に適合するかといった分析を通して、たとえ、その社会がどんなに不道徳で非人道的で強制的であったとしても、現在存在している社会を標準として扱う。これを受け入れられない人々は不適合者／異常者と烙印を押される。そして、痛みを和らげるために薬を与えられ、自助努力の本を渡される。ひどい場合は、施設に入れられてしまう。(刑務所も含まれる。)施設に入れられた人は馬鹿にされ、非難される。一方で、標準社会に適合した人は、ロールモデルやアメリカの見本として賞賛される。

しかし、こんなことはまだまだある。たとえば、心理学的見地から人種差別は、一般化するための必要な連続的行為(すべての人間がある価値観を必要とするもの)であり、固定観念(あるグループについて一般概念化すること)や民族中心主義(自分の属するグループが自然であり、優れているという考え)を導き、最後には差別(例として虐殺がある)をうみだしている。心理学の分析方法は外界の出来事を無視したせいで、被抑圧者の怒りや抑圧者の憎悪の違いを区別することができない。両者とも反社会的で異常な感情と見なされている。

恩きせがましい態度—多くの場合、白人の態度—が問題なのだ。上か

ら物を言い、私たちはみんな協力するべきだとにこやかに微笑む教師は、誰が被抑圧者で、誰が特権をもっているのかという現実を理解していない。もし私たちが彼らに逆らうならば（拒否は選択肢に入っていないが）、私たちは犯罪者あるいはテロリストとみなされ最終的に罰せられる。心理学は体制を支持し、被抑圧者に罪を負わせる。

しかし、多くの社会科学が同じような視点をもっている。マルクスが「宗教は人々を麻痺させるものである」と言ったことを思い出せばいい。彼は、「宗教は被抑圧者の記号であり、心のない世界での心であり、魂のない世界での魂であり、人々にとってアヘンのようなものである」と言う。アルコール中毒問題、ドラッグ問題、売春、消費社会主義をみれば、宗教が今だにそのような機能を果たしていることは明らかだ。

私たちが互いに殴り合ったり、愛し合っている者同士でさえ殴り合ったりしていることに、あなただって気づいているだろう。たとえ肉体的な暴力ではないとしても、精神的に傷つけ合ったりしている。お母さんと話してみなさい。彼女は抑圧され人生がめちゃくちゃになり、仕事がなくホームレスになったこともあったけれど、今は立ち直っている。いろいろなことがあって、あなたを傷つけたこともあっただろう。姉妹もあなたを傷つけたかもしれない。しかし、私は姪たちを愛していないわけではないし、あなたのお母さんを愛していないわけではない。私たちが人間はみんな、何か新しいものを創造する能力があると信じている。すぐに状態が変わるということは難しいけれど…。

ブラジルの解放のための教育を唱える教育家パウロ・フレイレは、「抑圧者の意識」について語っている。「抑圧者の意識」とは、学校や教師や政治家やマスメディアによって、私たちを「救う」という名目で擦り込まれてしまった競争や業績主義を意味している。かつ、私たちを階層化した、家父長制的、資本主義の社会へといざなっていく。そして、私たちは気づかぬうちに従順な召使にされてしまう。こうやって、私たちがさえ、友達や愛する人や子供たちの頭に同じようなやり方で教え込んでしまう。しかし、私たちがそれしかできないというわけではないし、逆えないというわけではない。他にももっと日々の生活の中で私たちにできることがある。

私があなたの手紙の中で最も感動したのは、「良いと思うことを行っていこうと思う。いい人になる必要ないと思うの。だって、私に問題があ

るわけではないのだから」とあなたが言ったことだ。すばらしいことだ。私もあなたぐらいの歳の時にそう思えたらよかった。シンシア・ローレンス-ワレスが教えてくれたことを君にも言おう。「あなたは怒る権利があるだけではなく、怒ったことに対して責任をとらなければならない。」なぜならば、正しい怒りの裏には行動があるからだ。座って何もせずに死んでいくのではなく、あなたには何かを変える力がある。

また、怒りの裏には人間性も存在する。愛、ユーモア、いたわり、分かち合い、協力がある。このような人間性を自分や自分の状況を良くするためだけではなく、あなたの周囲の人―抑圧を分かち合える人―と共有しなさい。もしあなたがそれを共有せずに自分のことだけを考えるならば、それは単なるわがままにすぎない。

あなたは十分に政治や経済について考える力をもっている。そして、社会の不正義についても認識している。人種差別や性差別などがどこからやってくるのかも理解している。行動する力を備えている。さあ、政治的に行動しなさい。

私はニューヨークにいないので、どういう政治団体があるかわからないけれど、社会主義労働党がいいかもしれない。会合がいつあるか、調べてみなさい。そして、ジェイソンも誘いなさい。マルコムXと一緒に読んだみたらどうだろうか。意見交換をして、何か前進するようなことができるかもしれない。しかし、これはとても難しいことかもしれない。もしジェイソンが家父長制的な意識を誇示するような人間でマイナス指向ならば、かえって裏目に出て、彼はあなたに暴力をふるうかもしれない。都会暮らしに通じていることは価値があることだが、あなたがミシガン通りから外れた通り出身の革命的な人―たとえば、マルコムXのような人―が自分たちの状況を語っていることを理解しようとしなければ、あなたは何も乗り越えることはできないだろう。何も壊すことはできない。

あなたは経験も知識もある。そして現実社会を知っている。私が好きなマルクス主義心理学者レヴ・ヴィゴスキーは、理論と現実社会を結びつけることは非常に重要なことだと言っている。彼はそれを「自発性」（日々の生きた経験）と「科学性」（理論的な概念）の結合と呼んでいる。そして、彼は世界のことや私が生きている社会を本当に理解するために、理論と経験を結びつけなければならないと言う。このことなしに、私た

ちは何も変えることはできないし、良くすることもできないし、自分自身を解放することもできない。マルコムXは少し違った表現をしているが、同じようなことを言っている。彼の言葉をはっきりとは思いつけないが、彼は、ハーレムにある安アパートや近所で起こったことを知るだけでは十分ではない、世界で起こっていることと関連させなければならないと言っている。

あなたは、自分の家で起こっていることと、パレスチナや南アフリカやグアテマラやインドネシアで起こっている抑圧や弾圧を関連させなければならない。歴史との関連性も考えなければならない。独りぼっちだと思っではいけないよ。あなたは一人ではないのだから。町には多くの人がグループを組んで運動している。あなたのように貧しい人、労働者階級の人、抑圧されている人がたくさんいる。そういう人たちを見つけて、一緒に活動しなさい。あなたを勇気づけ、命の息吹きを与えてくれるだろう。

このくらいにしておこう。ローリーをととても愛しているよ。手紙を本当にありがとう。それでは、また。

伯父のデヴィッドより

ローリーからの返事

返事を書くのが遅くなってごめんなさい。やっかいな問題が浮上してしまったの。学生みなさんに、ちゃんと手紙を受け取ったと伝えてください。私の声を尊重し聞いてくれて本当にありがとう。学生みなさんによろしく伝えてください。伯父さん、本当にありがとう。

ローリーより

Correspondence with Laurie

— Critical Pedagogy Following 9/11 —

David A. Hough and Laurie Peterson

With contributions by students from Shonan Institute of Technology
and Ferris Women's University

Setting the Scene

As someone who has been trying to address issues of social consciousness in the classroom, the events of September 11 posed a serious personal dilemma. Given the jingoism and tyranny that followed, to what extent could I feel safe in raising my voice – in speaking out to say that there was another view of it all? I was deeply concerned, even frightened. And then something happened.

About two weeks into the fall semester, I received a letter from my 22-year-old niece, Laurie Peterson, who lives in New York. In her letter, she described how life has not changed – how Americans have not become one – and what it is like for the poor, the working class and people of color in the inner cities of the US. Here was a letter that gave life to the kind of engaged critical pedagogy that I had been striving for. I called Laurie and asked permission to share her letter with my university students. She agreed.

I selected four classes where I would use the letter. Two are media communication classes at Shonan Institute of Technology (SIT), where I am a full-time professor. The other two are classes in English as a foreign language at Ferris Women's University, where I teach part time. The students at Shonan are mainly young men (about 90% of the student body is male), and mainly working class. Few of their parents went to college themselves and many students have a hard time making enough money to get through school. Ferris, on the other hand, is the oldest women's university in Japan and is very prestigious. Most students come from very wealthy families. Students at both schools are between 18-20, with one student in her 50s.

In class, I read Laurie's letter in English, translated the difficult parts into Japanese and then asked students to answer it. Because the SIT classes are not English, I told the students they could work in groups and write their letters in Japanese. At Ferris, I asked students to write in English but gave them time to do it as individual homework assignments.

I wanted students to experience three things. First, I wanted them to hear directly from someone who was about their age and could relate what it's like to grow up in and around the ghetto in an oppressive and exploitative environment—a reality that is quite different from the white image of America that most Japanese get from Disneyland, Hollywood and the mass media. Second, I wanted them to hear a different voice regarding the World Trade Center and American terrorism in Afghanistan. I wanted them to know that there were other voices in America.. And third, I wanted them to interact with Laurie in a way that made them active participants in the creation of their own learning. I should add that I did not tell the students either how they should respond or what they should respond to. Some concentrated on Laurie's plans to get married and her feelings about that. Others focused on Jason, Laurie's boyfriend. Still others addressed issues of poverty, oppression and racism. And others?

Probably most? They responded to what she had to say regarding the WTC. Quite a few groups responded to more than one of these things, although none of them addressed all of the things in her letter.

Laurie's Letter

Hey, Uncle Dave! It's me, Laurie. What's up? I'm doin' okay. Sorry about the letter being a little later than I said. I had a little setback. I was sick, kidney stones. But I'm fine now. I'll live, you know.

I wanted to tell you some more about my boyfriend. I don't know if this is your kind of subject, but I love him very much and I wanted you to know a little about him because he wants to get married, not that I don't. It's just that marriage means nothing to me but a piece of paper and taxes. I personally don't need a paper or a fee from the State of New York to tell me how much I love someone. But, whatever, I guess it matters to him.

His name is Jason Edward Strange. He is a 29-year-old Black man. He is

very streets. Thugged out, as I would say. But I suppose that in average “uppity” white American lingo, they would call him a “hoodlum.” He’s not a “hoodlum!” He is a good man. He’s just been through a lot. He lives in the Ghetto in Mount Vernon, constantly faced with negativity. So it’s like there’s a choice, but there isn’t. His brother was killed, his sister died of AIDS, and people have hurt him emotionally. Sort of like me in ways. I guess that’s why we need each other or want each other so much. We are trying to have a better life together. Hopefully we will make it because for someone like him, it’s hard to step outside without his life being threatened.

Just Sunday he was robbed and jumped by some bloods and they tried to kill him. He’s got staples in his head. Stitches from where he was stabbed. And his ribs are bruised. I’m sure you don’t like to hear things like this, but this is what’s in my life. I am just trying to do good and I won’t say become a better person because there is nothing wrong with my person. I just am trying to change my situation.

I don’t mean to say this but he is the only one in my immediate life that I care about. Not that I don’t care about or love my Mom and sisters. It’s just they have shit on me and made me feel like crap for so long that I just don’t want to see them anymore. I’m tired of hearing how I won’t be nothing. I’m tired of hearing my opinion is wrong or ridiculous. I may not have went to Harvard but I am intelligent in life and how things really are. Not this sugar-coated American life, and you are the only one in my family that believes in the things that I say and listens to me. Thank you.

I just wanted to get this out. America is so full of it. Since the World Trade Center, “they” have promoted this whole “united” and we are all ‘one’ at this time and from now on”. “American life will change” (not my words). What I say is...

Not a damn thing has changed. Things are still the same where I am from. And will never change... no matter what false-ass slogan they throw out to gullible ears. All I have to say; is “La, La, La!! I can’t hear you...” Bullshit!

And the other thing that pisses me off is that everywhere you go you are harassed to donate money toward the relief effort. They want to take my money out of my struggling pockets but yet the Lotto is now 10 million dollars. What

shit! I'm not giving up a fuckin' penny. They never had any fund-raisers for me. And as far as stealing the money out of the working class/poor pockets when they have things like million dollar lotteries... when our city schools are having classes in bathrooms and closets... they can go fuck themselves. My personal opinion – you know...

Well, I love you. Send my love to Ken, Fumiko and all. Hope to hear from you soon. I sent some drawings and poems. Hope you like them.

Love always,
Laurie

Responses from SIT Students

Laurie: Mass media is giving a prejudice view of the world to people. People like you have your own knowledge of the world but the mass media tries to take that voice away from you. Regarding the WTC and Afghanistan, the US media and government are saying that America will win. We don't think that the American government will easily give up. Therefore, voices like yours are very precious.

(Nobuaki, Suguru, Kozy, Daisuke).

Laurie: You have a beautiful person that you love and want to care for. I do too. It doesn't matter if the person is rich or poor as long as you care for each other. (Osamu, Hitoshi, Yuhei).

Laurie: It's wonderful to have such deep knowledge and understanding. You shouldn't lose your voice. Keep fighting for what you believe in. There is too much racism and oppression in America. (Asuza, Yukie, Kana, Kuniko).

Laurie: We think it's wonderful for you to get married if you want to. Regarding the second part of your letter, you describe things that are very different from what the mass media tells us about America. If your voice is weak on this matter, you can't blame the media or government. Of course they are in the job of mind control and you need to understand that. If the oppressed are weak and afraid (to organize) or express themselves, they will be unable to say or do what needs to

be done. You have the freedom and the right to say what you want but you shouldn't speak unless you are also willing to take responsibility for speaking up. If you are brave enough, you must speak up. Be brave! (Takuya, Yugo, Yasahi, Junichiro).

Laurie: We're all for you so long as you love him. Regarding the second part of your letter, nothing will change unless you get organized to make it change. (Takashi, Ryota, Yuya, Akihiro).

Laurie: From your letter we feel your warmth and love for him and that you will do well. We didn't know about the Lotto in New York or the condition of the schools. We agree money should be redistributed based on need as you say. We know that the mass media in the US is very conservative. This is our opinion, but we think the mass media and government in Japan are the same. (Takahiro, Yukiji, Sho, Atsuya).

Laurie: We read your letter. To be honest, it's difficult to respond. It's not that we don't understand what you're saying but we have no experience of these things so we don't know what to say. What the US is doing may or may not be mistaken. But it is sure that 6,000 innocent people died in the WTC. We think that the anti-terrorism campaign against other countries is justified. However, we can't support what America is doing. Murdering innocent people in Afghanistan is not the answer. We have no idea how this will be resolved. At the same time, we are afraid. (Kai, Jun, Kotone, Tatsuhito).

Laurie: The US government is terrorist just like the Taliban. We can't forgive terrorism of the Taliban but we can't forgive the US either. The people who suffer are always the regular people like us. (Hiroshi, Hiroyuki, Ryosuke, Yuya, Shukei).

Laurie: Congratulations on your plans to get married. Don't worry about people who may be against you. Go your own way. Regarding the second part of your letter, the news in Japan about Afghanistan is great. It says that America always

wins its wars. This makes us sad. What meaning is it for the US military to kill innocent people in Afghanistan? Unfortunately, Japan seems to be joining the US alliance. Some people are saying we should send the Japanese Self Defense Forces. But how can we agree to have our Japanese military involved in actions which support American killing of innocent people in Afghanistan? That means we become killers too. As you say, people's thinking today is crazy. If you have a chance, please expand on your thoughts. Unfortunately, there is little opportunity to expand on our thoughts in Japan. The Japanese mass media controls everything. (Teruyuki, Akinori, Yasuhiro, Tomoaki, Takamasu).

Hey Laurie: How is it going with you and Jason? What about the terrorism in New York? We feel that America is not for equality. We understand that the contradictions of living in the ghetto in a place like America, but hang in there. (Naobumi, Yuuki, Akihiko, Takamasa, Muneyuki).

Laurie: How is Jason doing? Is he okay now? We were worried. We were saddened to hear that he lost his brother and sister. Please give him our condolences. We think that life in America must change, but we want to know how. (Naoki, Ryoichi, Tsuyoshi, Kousuke).

Dear Laurie: Thank you for your letter. We think you are correct. America is a counterfeit culture. Only the privileged get anywhere, even in school. Everything is money. I've had a similar experience in Japan. When I was getting ready to graduate from junior high school, my homeroom teacher tried to force me to go to night school and bullied me in many other ways. I was hurt very much by that teacher. It's wonderful to be able to live and act on your feelings. It's not right or even human to change your values to fit others, especially people who might hurt you. Please live a good life as a real human being. (Kenta, Yuta, Tomoaki, Yohey, Takeru).

Laurie: It's very wonderful to hear that you want to marry. We think your family should understand. We don't know for sure, but we think it may be difficult in America for people in interracial marriages or for people from the street. Please

don't let prejudice and exploitation affect you. You need to have a wide view of the world and a strong spirit. (Makoto, Yohei, Yuuma, Takashi, Shingo).

Laurie: We hate racism but know it exists. The mass media creates stories that make people act like puppets and racists. Unless the media tells the truth about poverty and oppression, people will just look the other way. This is also a kind of racism or prejudice. Despite these things, we wish you the best. We know you can overcome these obstacles from society. (Kenichi, Yuki, Masao, Ryota).

Responses from Ferris University Students

Dear Laurie: Hi, I'm Kozue Shimoda. Let me introduce myself! I live in Tokyo. I'm an 18 year-old-girl. I go to Ferris University and am a freshman. I love to listen to music (hip hop, R&B), and watch movies. I've been to L.A. When I received your letter, I [felt confused]. Stand up for myself, I don't know what to say. You really seem to like your boyfriend!! And he loves you so much!! I'm so [envious of] you. That's so neat. My ex-boyfriend was a loser so I dumped him!! You boyfriend seems to like problems. But he must be a good man!! If I were you, I would get married. And I don't care if he were Black or white. So, if you really love him, you should get married. With love, From Kozue

Hello Laurie: How are you? I read a letter from you. I saw that you have many problems in your life. Your boyfriend's situation is very hard. I know you are a great person. You see things as they are with your own eyes. You are struggling against discrimination with him, not fleeing. Though he wants to get married, as you say, you don't need a piece of paper between you and him. Love does not need a piece of paper important to believe each other for love. I think that the present relationship is better. Treatment against him is very terrible. Action of America since Sept. 11 also. I have thought that America is a country of freedom, peaceful, but now I don't think so... Now we need one's opinion. The best way is that you live your life honestly with your opinion. Do what you believe to be right! Believe yourself. Please don't forget your family. Please remember that your uncle worries about you very much. I always support you. Take care. Love, Yasue Horibe

Laurie: When terrorism happened in America, I felt commonplaceness dissolved into coffee. When retaliation to terrorism happened, I felt I ate poisonous fruits. I don't know about American people's life, but I don't think all American people is all "one." And I know various opinion can't reflect society. It is regrettable things. But [being] in Japan, I don't know what advice to [give] you. Sorry. It is difficult for me to answer. I'm very sorry. But I am going to think about hard at these problems. —Yuka Isobe

Dear Laurie: Your letter [made me think]. I didn't think America is so full of it. Maybe all of the world's life is sugar coated. [It is difficult] for all of us to live with the lies in the news, overflowed in the world. Your boyfriend is very nice! Hang in there! —Eri Yamashita

Dear Laurie: You are very honest. You don't try to hide yourself or to run away but to change the world. That's wonderful. Hang in there! —Izumi Nakamura

Dear Laurie: Hello. How do you do? My name is Tomomi Imamura. I am Ferris University student. Well, I read your letter. First, I suggest you think your boyfriend over again. Your boyfriend is good but there are many boys in the world. I suggest that you should see another boy though I can't say a lot of it [them?]. Two, [it is very good that you have your own opinion]. I can't have my own opinion so I always hear another human opinion. I think that I want to become human like you. Your letter were a great encouragement to me. Thank you. That's all. Goodbye. —Tomomi Imamura

Laurie: I agree to your opinion and want to support you. I've never been to the USA, and I don't know the fact of America. I have only knowledge got[ten] from the mass media. So I believed "American life will change." But since I read your letter, I may change my opinion. I want [you] to be happy with your boyfriend. You may get a bit of a problem but you don't abandon and I want you to do your best. Cheer up! Love, Sachiko Murai

Dear Laurie: My name is Keiko Tamagaki and I am an older student of Mr. Hough who teaches me English. Each theme is very difficult for me like stereotypes and propaganda. In addition to that I am not good at English still now, even though I keep studying English for a long time. However, I am happy to write a letter for you. I had a chance to read yours last Friday. I was worry about that the American army opened an attack against Afghanistan terrorists, Al Qaeda. The reason why the Bush administration strongly protests to the world that it is a retaliation under the justice. I have two sons who are 28 and 25 years old. Elder son has been in the U.S. (New York, Seattle) ever since 1998, so we talk about the American economy, presidential election, terrorism and so on. I would like to know what happened to Afghanistan children and refugees. Therefore I went to listen the lecture in Kamakura, [given by] Dr. Nakamura, whose group has supported Afghan people for eighteen years. Finally, I have doubts about the American justice. I really think that we have to realize the truth from the fact. I hope you are feeling well and having fun. Take care! Sincerely, Keiko Tamagaki

Hello Laurie! I read your spiritual letter to David. I experienced like your experience from the racial discrimination too. My father and my grandmother have a large sense of discrimination toward Korean people. It's influence from my grandfather who [went to war]. I'm very sad and I can't forgive that there are persons who have such a feeling. But I can't deny their feelings because they had listened to a story about a war from my grandfather. However, may I allow this discrimination? No! It is by no means what can allow. I don't know whether it will be a peaceful day. It is impossible for us. But wishing that forms the source of peace. Thank you, From Hanako Itamura

Dear Laurie, Hi, my name is Junko. Your letter made me think many things. I always thought that every American thought this war was right. I'm glad not all Americans think that. After the World Trade Center, everyone had the American flags and said "we are all united." I thought that was strange, too. I also think you are right not giving them any donations. Before I read your letter, I never realized that. My teacher (your uncle) says you are brilliant and I agree. I hope

you have a lifetime [of] happiness with your boyfriend, Jason. Bye, Junko Takagi

Excerpts from Uncle Dave's Response

Let me begin with a story. This goes back a couple of years to when I was working on my doctoral dissertation and having a really bad case of writer's block. I was mad. I mean really mad. Almost in rage – which in a way, is my natural state. I was mad at myself for not being able to write. I was mad at all the injustice in the world and mad at myself for having copped out for so long – for having spent twenty years of my life trying to pretend I was the white middle class person that I'm not so I could make it (or try to make it) in their world. I was mad that I hadn't been strong enough to fight back, that I felt that I had to hide myself for so long. And mad that when I tried to hide who I really was – which I could never really do completely or for very long – I would invariably lash out in some emotional outburst which nobody ever seemed to understand or be able to cope with. I was mad because there was obviously something very wrong with me and I couldn't seem to fix it, no matter how I tried.

One of the people on my dissertation committee was a wonderful woman named Cynthia Lawrence-Wallace. She's Black, a feminist, a lesbian and political activist. More than anyone else on that committee – and they were all good people – she understood me. Her first response to all of this was that she didn't think my being angry prevented me, blocked me from writing. She was sure that I could really write when I was mad – that maybe my best writing would come when I was mad. But more important was something else she said. She said, David, "Not only do you have the right to be angry, you have the responsibility to be angry!"

Nobody had ever said that to me before. It was always like getting angry was pathological. Just like being a socialist had to be pathological – especially if you're white and American. There had to be something wrong with you.

Rage, you see, is an emotion that is disallowed in our service industry world (in the 19th century I think they still called it a society of masters and servants which is actually more accurate). Masters can get angry, servants can't. Know your place and behave accordingly. And if you've got any of them unhealthy emotions – which you're bound to have if you've been oppressed or exploited –

then you damned well better get rid of them – or at least not show them around respectable folk!

And to prove that something's wrong with you, they invented psychology. Psychology is devilish. It uses existing society as the norm with its unit of analysis the individual and how well that individual adjusts to society – no matter how immoral, how dehumanizing, coercive or stigmatizing the society may be. People who do not accept this are deemed ill-adjusted, pathological. They are given pills to ease their pain, sold self-help books or at other times they are ostracized, one of the worst forms of which is institutionalization (including incarceration in our jails – the largest per capita population of criminalized people worldwide!). But even those who escape institutionalization are ridiculed and condemned. Meanwhile, those who adjust and succeed are lauded as role models, as examples of the American dream.

But there is more. Racism, for example, understood from a psychological perspective is seen as part of a continuum beginning with the need to make generalizations (something all humans need to do in order to make sense of the world), and moving to stereotypes (which are little more than mistaken overgeneralizations about other groups of people), to ethnocentrism (where you see your own group as natural and possibly superior to others), and onto to prejudice and finally racism (with its penultimate form, genocide). Because this mentalistic method of analysis ignores the outside world, psychology is incapable of distinguishing between the righteous anger of the oppressed and the racism and hatred of the oppressor. Both are seen as deviant, anti-social, pathological emotions.

The solution now takes the form of that condescending – almost always white – smiley teacher face who looks down at us and tells us that we should all hold hands and smile at each other, ignoring both the history and everyday lived reality of who it is that is oppressed and who it is that is privileged. And if we hesitate or seem reluctant (outright refusal is never an option), we are the ones who are diagnosed as potential hate crime offenders or terrorists, and punished accordingly. What psychology really does then is to support the status quo and to criminalize the victim.

But then, all of the social sciences do essentially the same thing in their

respective ways. Ditto for religion. Remember what Marx said, that religion is the opiate of the people? Actually, let me give you the full quote: “Religion is the sigh of the oppressed creature, the heart of a heartless world, the soul of soulless conditions, it is the opium of the people.” Right, religion still serves that function – along with alcohol, drugs, prostitution, consumerism and a lot of other things that you can find on the streets and in suburbia – including psychology.

You notice how we’re always beating each other and the ones we love up? And when we’re not doing it physically, we’re doing it psychologically. Go talk to your Mom and even though she’s been oppressed and exploited all her life, and is now in and out of being homeless because of her disability which makes her unemployable, she’ll be the first to beat you up psychologically. So will your sisters. That doesn’t mean, by the way, that I don’t love your sisters anymore than it means that I don’t love your Mom. I believe that all of us have the capacity to create something new. But this still doesn’t change the fact that we often use very negative strategies for coping.

Paulo Freire, a wonderful Brazilian liberatory educator, calls this phenomenon the “consciousness of the oppressor.” It is the competitive and exploitative mentality that our schools, teachers, politicians, mass media, etc., pound into our heads so as to “save” us and prepare us to participate in our highly stratified, patriarchal, capitalist, servant society. So that we’ll be malleable, smiling servants. And it’s what we, in turn, pound into the heads of our friends, loved ones, children, so that they’ll be “saved” the same way. But that doesn’t mean that this is all we know – or that this is the only way we’re capable of behaving. There are a lot other truly wonderful, loving, caring, sharing, collectivist behaviors that we DO perform everyday.

The part of your letter that touched me the most and that I’m trying to relate to here is the part where you say, “I am just trying to do good and I won’t say become a better person because there is nothing wrong with my person. I am just trying to change my situation.” That’s beautiful! I only wish I had had that awareness when I was your age. And to that let me add what Cynthia Lawrence-Wallace taught me: “Not only do you have the right to be angry, you have the **RESPONSIBILITY** to be angry!” Because it’s behind that anger, behind that rage – that righteous, righteous rage – that you’re going to act. That you have the

capacity to move and change things rather than to sit and vegetate and acquiesce and die.

And it's also behind that rage that your humanity – all your love, your humor, your caring, sharing, collectivist, beautiful you will also bloom. But there's a catch. It has to be directed. It has to be directed not just toward yourself and bettering your own situation, but toward those around you – those sharing your oppression – as well. If you direct it only toward yourself, and somehow do manage to make it, you will only become a selfish, shallow core of what you otherwise could have become.

You have already made the political and economic connections. You understand the unjust class nature of our society. You understand where racism, sexism and all the rest of that are really coming from. And you have the capacity to act. Act politically!

Involve Jason if you think he's ready. Start reading Malcolm X together. It might be a way to share ideas, and to move beyond where you are. I realize this is a very sensitive thing and that if he's too thugged out, too trapped by the negativity, by the patriarchal consciousness of the oppressor, it could backfire and even hurt you physically. Being street-wise is very valuable. But unless you are going to put that together with what revolutionary people – people like Malcolm X, for example – who also came off the streets after Michigan, have to say about their situations, then you'll never get over that negativity. You'll never break out.

You've both got the experience, the knowledge of the everyday, lived, reality. You know the streets, the real world. Lev Vygotsky, a Marxist psychologist that I happen to like, believes that connecting the real world with theory is extremely important. He calls it connecting of "spontaneous" (everyday, lived, experiential) concepts with "scientific" (abstract, theoretical) concepts, and says that in order to have a truly grounded understanding of the world and where we are in it we must make a conscious effort to connect our experiences with theory. Without that, we can do nothing to change our world, to make it better, to liberate ourselves. Malcolm X put it a slightly different way, but it came down to the same thing. I can't remember the exact quote, but he said in essence that it's not enough to know what's happening in your tenement building in Harlem or even on your

block or your neighborhood (or Mt. Vernon or where ever), you've got to connect that with what's happening in the world out there.

You need to connect what's happening at home with the oppression and repression in Palestine, in South Africa, in Guatemala, in Indonesia, etc. And you've also got to connect it with history! The worst thing is for you to feel isolated. And the thing is, you're not. There are a lot of people in the city who are getting out and getting organized and doing things. Poor, working class, oppressed people just like yourself. So find them, get linked up with them and get active. It will invigorate you. It will give you a life. Believe me!

I guess that's about it, except to say that I love you and to thank you again for your beautiful letter. I'll be in touch.

Love,
Uncle Dave

Laurie's Answer

I hope you're not mad that it took me so long to get back to you. I'm having a few major problems right now. Let your students know that I got their letters and I think they were great. It feels really good to know that my voice was heard and respected – (something) which doesn't happen too often around here. Tell them all thank you for me. You'll be reading from me shortly. I love you and miss you a lot.

Love you,
Laurie

Bibliography

Freire, Paulo (1988). *Pedagogy of the oppressed*. New York: Continuum Publishing Press.

Freire, Paulo (1998a). *Education for critical consciousness*. New York: Continuum Publishing Press.

hooks, bell (1994b). *Teaching to transgress: Education as the practice of freedom*. New York: Routledge.

hooks, bell (1995). *Killing rage: Ending racism*. New York: Owl Books.

Shor, Ira (1980). *Critical teaching and everyday life*. Chicago: Chicago University Press.

Shor, Ira (1996). *When students have power*. Chicago: Chicago University Press.